



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	世中出版部 (総合学習「テーマ研究」) (fulltext)
Author(s)	扇田, 浩水
Citation	研究紀要 : 東京学芸大学附属世田谷中学校研究年報, 2016: 154-155
Issue Date	2017-03-31
URL	http://hdl.handle.net/2309/148601
Publisher	東京学芸大学附属世田谷中学校
Rights	

3. 1 世中出版部

(1) 対象学年 2・3年

(2) 担当教員 扇田 浩水

(3) テーマのねらい

文学作品や映画、漫画など、幅広いジャンルの作品を対象として自分の文芸評論本をつくらうというねらいで授業を行っている。普段は読者としての自分しかあまり意識したことがない中学生が、表象について自ら分析する、ということ念頭に置いて探求していく授業である。文学作品や映画、漫画などには、豊かな言葉がたくさんある。読み手としてだけでなく、書き手としての工夫や分析を通して自分の言語をより豊かにすることができると思う。読んだり、研究したり、書いたりすることが好きな生徒を中心に、自ら好きなジャンルの作品を選んで研究することができるようにしている。

(4) 学習活動の概要

主な学習概要	
1	オリエンテーション（研究テーマ例の紹介と課題決定）
2	各自で研究したいことがらをプレゼン。（テーマ決定）
3	調べ学習や研究の時間（1）
4	調べ学習や研究の時間（2）
5	小説を読む「石川淳 『焼け跡のイエス』」 講師：山口俊雄（日本女子大学教授）
6	各自の研究テーマ発表会
7	発表後の反省と本の作成準備
8	本の作成
9	本の作成
	テーマ研究発表会準備
	テーマ研究発表会
	テーマ研究まとめ・自己評価

17名の生徒と一緒に研究を行った。最初にジャンルやメディアの違う作品が多くあることを紹介した。さらに異なるメディアで作品化されることもあるというメディアミックスについても検討し、作品とメディアは重要な関係にあることを意識させた。

その後、自分の好きな作品についていろいろ調べていく個人活動に入っていった。現代小説や昭和の漫画、ライトノベルなど、取り扱う作品は多岐にわたった。普段身近に読んでいる作品を分析することは、読みやすいものをあえて分かりにくくする、という矛盾した作業でもある。しかし、教科書にあるような読解しづらいものでなくとも実は研究することが難しい、という表象の奥深さについて学ぶ重要な機会であった。生徒自身が選ぶ好きな作品であるため、読書量もあらかじめ担保されていることから研究はスムーズに進められた。

また、日本女子大学の近代文学研究者山口俊雄教授に講義を行っていただくことができた。近代文

学の石川淳「焼け跡のイエス」を読解する授業であった。小説内の言葉を、内外からどのように相対化して当てはめていくか、非常に重みのある講義内容であった。志賀直哉や太宰治の小説とも比較し、同題材でも小説によってどのように描かれたかを横断することで見えてくるものがあるという視点を教えていただいた。このことは、今後作品内にとどまらず、作品を客観的に相対化して分析するためにも必要な経験であった。生徒個人の小説の読み方に様々な可能性を与えていただいた貴重な時間であった。

(5) 今後の課題

生徒の研究成果の交換、この先を考えることが重要であると感じた。このテーマ研究を行っている、中学生はとても多くのジャンルの作品を普段から読んでいることが分かる。彼らには自然に作品を読み批評する力がついているが、他の人がどう読んだかという読みの違いは全く意識していないと行ってよい。つまり読みの交換を普段の読書では行う機会がないということである。国語科の授業では意図的にブックトークなどを行って意見交換をすることができるが、普段好きで読んでいる本については読みを深めたり多角的な視点で分析することはない。しかし、自分の読書活動を豊かにする、言葉を分析的にとらえるという点では普段の読書こそ、もっと追究して言葉の紡がれ方に敏感になるチャンスをはらんでいるように思う。そのことに自覚的になり、自ら読みを深める生徒になるべく、生徒同士の成果の交換に今後時間を費やしたいと考えている。